

取組の概要



平成26年8月24日（日）「多文化共生フォーラム」第二分科会
群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」養成ユニット
企画・運営責任者 結城 恵

少子高齢化による人口減少が深刻化する群馬県

外国人住民との間の共生をはかる「問題」を検討する



外国人住民と地域活性化を進める「協働」を検討する

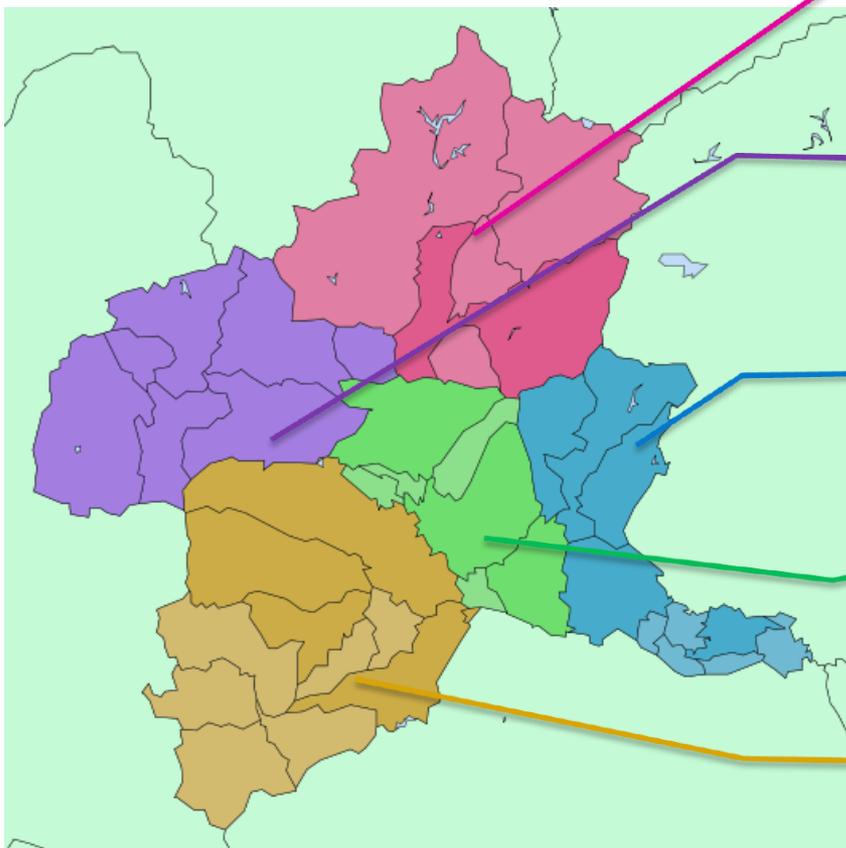
地域人財としての

留学生・定住外国人・ミドルスキル人材

への注目

地域によって多様な多文化共生課題

5行政地域で行政・企業・住民・NPO等に聞き取り調査を実施(H21年度329件)。



■利根・沼田 1位中国 2位フィリピン。農業と観光。日本人の配偶者も多い。

家族・地域・学校とうまくやっていくには？

■吾妻 1位中国 2位フィリピン。農業と観光。国内外からの観光誘致で生き残りをかける。

外国人にとって魅力ある観光とは？

■東部 1位ブラジル 2位フィリピン。集住率17.1%の太田市、14.8%の大泉町あり。製造業中心。

感染症・震災・原発等緊急事態での情報を

■中部 1位ブラジル 2位ペルー。集住率24.9%の伊勢崎市あり。製造業中心。

安心して受診できる医療システムの開発を

■西部 1位中国 2位フィリピン
商業集積地と限界集落散在。観光と流通。

中小企業の生き残り戦略にできないか

**外国人住民の定住化がすすみ、各地域のニーズは
県域を越えたニーズへ。必要とされる領域は多様。**

2. 事業の目的・内容 多文化共生推進士の養成

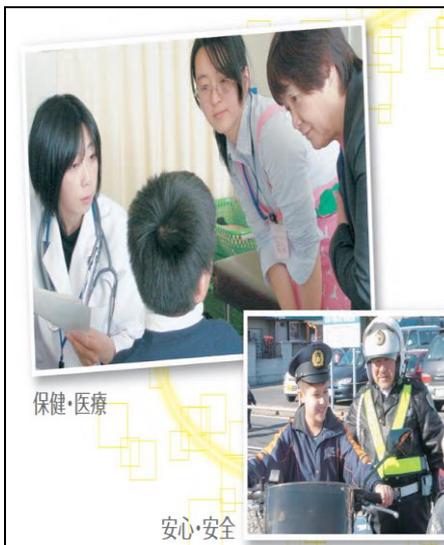
生まれ育った文化や社会が異なる人々と
共に生きる環境づくりを通して地域活性化を推進する人材

「多文化共生」の視点ではかる
地域活性化とは

「多文化共生」の視点で
地域活性化を推進する人材とは

外国人が「地域人材」として、
ぐんまで働く・暮らす
環境を整備すること

- ①定住者
- ②留学生
- ③ミドルスキル人材



平成24年度

言葉の壁・文化の壁を 越える実践づくり

MINAKAMI班 自転車班

「ぐんまで暮らし・働きたい」留学生を活力に

ネットワーク班 ラジオ班

少子高齢化による労働者不足 時代到来への 外国人材の可能性を探る

事例研究「トラック業界の労働力不足
—どのような人材で補完できるのか—」

平成25年度

定住者への 「ハタラクラス」プロジェクト

H25年度 文化庁「生活者」としての外国人と
ための日本語教育事業 との連携・
地域活性化への展開

学生への 「ハタラクラス」プロジェクト

H25年度 文部科学省 留学生交流拠点整備
業との連携・地域活性化への展開

在日外国人求職者の職業転換 による群馬県内の重点産業の 活性化の基礎研究

H25年度 (株)ボルテックスセイゲン社との
共同研究

多文化共生推進士の養成



履修証明プログラム

- 「多文化共生推進プランナー」プログラム:「アナリスト・コース」と「プランナー・コース」の2コースのみを履修するもの。
- 「多文化共生推進コンサルタント」プログラム:「アナリスト・コース」と「プランナー・コース」、「コンサルタント・コース」の3コースを履修するもの。
修了者は「多文化共生推進士」としての要件を満たします。

実施体制

GUNMA UNIVERSITY

GUNMA PREFECTURE



【特徴】地域協働・往還型プログラム

地域協働・往還

多文化状況にある現場を、その現場にいる生まれ育った文化や社会が異なる人々の視点で十分に理解し、関係する機関・個人と合意形成を図りながら課題解決への糸口を探り、実践を創り出していくための手法

結城（2014）

平成25年度

外国人住民のみなさんとともにぐんまで
働く・暮らす環境をどのように整えるか？

ANコース

外国人住民

定住者

①伊勢崎市住民調査

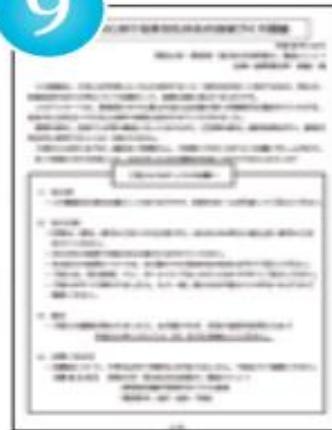
8



留学生

②4大学学生調査

9



【特徴】地域協働・往還型プログラム

PLコース

CNコース

1 定住者班

定住外国人が安心して高齢期を迎えるために…



【特徴】地域協働・往還型プログラム

PLコース

CNコース

2 留学生班

『ハタラクラスぐんま』プロジェクト
尾瀬の魅力を再発見!



平成25年度 事業の成果

4. 多文化共生推進による地域活性化プロジェクトを 県内各地で展開



【前橋市】平成24・25年度 ラジオ番組「前橋留学生活」(平成24年度)
「ハタラクラスぐんま」(平成25年度)



履修生たちのコーディネートにより、前橋中心市街地に、前橋近郊の大学に通う学生・留学生たちが定期的に集うようになった。前橋の魅力の発見を楽しむ学生たちの心の中に、人や地域とつながりたい気持ちが生まれた。平成25年度は、ぐんまで働き、暮らしてほしいという地元住民や企業のみなさんと思いを重ねたラジオ番組「ハタラクラスぐんま」に結実した。

【みなかみ町】平成24年度 「民話の語り。世界の子守唄」
～みなかみ町から発信する国際文化交流の集い～



「わが子を想う心」を共有し体感する場づくりを通して、生まれ育った文化や社会を越えた人と人とのつながりをつくる。出身国の異なる多様な人々とともに、みなかみ町の地域活性化について考え、企画を立て実践した。

【片品村(尾瀬)とその周辺地域】

平成25年度



学生への「ハタラクラスぐんま」プロジェクト

尾瀬はもとより、尾瀬に向かう2つの街道沿いには、豊かな自然と文化に育まれた地場産業がある。そこに従事する人たちと交流を深め、産物が生まれる過程とその過程に込められた地域の人たちの思いを知る旅を企画しようという履修生の声で生まれたプロジェクト。

尾瀬の関係者のみなさんの温かい応援のおかげで、通常の旅では見落としてしまう人・もの・自然の宝を掘り起こすことができた。プロジェクトに参加した群馬県内外の学生や留学生の素直な驚きや発見の声を集めることで、さらに街道をひっくるめた尾瀬の魅力をグローバルに発信する取り組みを進めている。

【伊勢崎市】

平成25年度



定住者への
「ハタラクラスぐんま」プロジェクト

在日年数が20年を超える外国人定住者も増えている。いずれは帰国したいと考えていたこれら定住者に、日本で高齢期の生活を迎える備えはできているのだろうか。日本人でもなかなか理解しにくいその備えを「わかりやすい日本語」で伝えるプロジェクト。アナリスト・コース履修生たちが、実態調査に取り組み、ファイナンシャル・プランナー、社会福祉士、介護福祉士、弓道5段の資格をもつコンサルタント・コース履修生たちが、日本語教育の先生方の指導を受けながら総計60時間に及ぶ教室を開催。その取り組みのなかで見えてきたのは、「高齢期」と「備え」に対する文化的なちがいがい。そのちがいを越えたわかりやすい伝え方への模索が続いている。



「ハタラクラスぐんま」
アンケート調査(アナリスト・コース)

【太田市】

平成24年度



在日外国人児童・生徒への
「やさしい日本語」による
自転車防犯・交通安全教室

自転車に関する教育や啓発を受ける機会の少ない在日外国人児童・生徒に対して、安全に自転車に乗り、自転車盗難の被害に遭わないように、日本の自転車に関する交通ルールを学ぶ自転車安全教室を本学と群馬県警察が協働で実施。